



2017全道教職員・働き方改善アンケート

～これが原因、わたしの長時間労働。これが原因、解決のために～

文科省が公表した2016年度の公立校教員勤務実態調査では、中学校の約6割、小学校でも約3割の教員が、「過労死ライン」とされる月80時間以上の残業をしていることが明らかになっています。「教職員にも時間外労働時間の上限規制を行うべき！」という声も広がっています。

子どもたちの笑顔輝く学校づくりのためには、教職員が笑顔で教育活動をすすめられる職場環境が重要です。道教委への申し入れ・交渉などを通して教職員の長時間過密労働の解消につなげていくため、みなさんの超勤実態や意見要望をお聞かせください。多くのみなさんの協力をお願いします。（※〆切は8/31）

全北海道教職員組合(道教組)・北海道高等学校教職員組合連合会(道高教組)

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗りつぶしてご回答ください。

: 空白マーク : 正しいぬりつぶし : 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出したり、回答欄以外に書き込みはしないでください。

この用紙は機械で処理します。用紙を汚したり、折り曲げたりしないよう注意してください。

◆基本事項について◆

(1) あなたの勤務校をお聞かせください

(2) あなたの年齢をお聞かせください

20歳未満 20歳代 30歳代 40歳代 50歳代 60歳代以上

(3) あなたの所属をお聞かせください

小学校 中学校 高校(全日制) 高校(定時・通信制) 特別支援学校

(4) あなたの職種をお聞かせください

教諭(学級正担任) 教諭(担任をしていない) 養護教諭 実習助手(実習教諭) 事務職員
 現業職員 寄宿舎指導員 主幹教諭 管理職 その他

(5) あなたの部活動顧問をお聞かせください

運動部正顧問 運動部副顧問 文化部正顧問 文化部副顧問 顧問をしていない

◆あなた自身が「大切にしたい」「削減したい」と考える業務について◆

学校で行われるすべての教育活動(業務)は、意義あるものですが、「根本的に仕事量が多すぎる」ことに超勤の原因があります。無理ある仕事量と業務の見直しにむけ、あなた自身が「大切にしたい」「削減したい」と考える業務についてお答えください。

* (6)～(8)選択項目は、道教委の時間外勤務調査「教育職員の業務内容一覧」を参考

(6) 児童生徒への指導に関わって、あなた自身が「大切にしたい」と考える業務を"3つ"選んでください。

朝の指導(登校指導・挨拶運動・朝学習など) 授業・授業準備(教材研究) 授業外の学習指導
 集団への生徒指導(清掃指導・校内巡視など) 個別の生徒指導・教育相談 進路指導
 学校行事(含む準備) 児童会・生徒会指導 部活動・クラブ活動
 成績処理 学級・保健室経営(通信の作成など)

★マークのしかた



(7) 学校運営に関わって、あなた自身が「削減したい」と考える業務を”3つ”選んでください。

- | | | |
|--|--|------------------------------|
| <input type="radio"/> 学校経営・学校運営（教育課程の作成など） | <input type="radio"/> 会議（職員・分掌・教科など） | <input type="radio"/> 個別の打合せ |
| <input type="radio"/> 事務処理・調査報告 | <input type="radio"/> 会計（給食費、学級費の徴収など） | <input type="radio"/> 校内研修 |
| <input type="radio"/> 官制研修 | <input type="radio"/> 出張（分掌にかかわる会議など） | |

(8) 外部対応に関わって、あなた自身が「削減したい」と考える業務を”2つ”選んでください。

- | | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|
| <input type="radio"/> 保護者対応 | <input type="radio"/> PTA業務 | <input type="radio"/> 地域対応 |
| <input type="radio"/> 行政・関係団体対応 | <input type="radio"/> 中体連・高体連などの団体業務 | |

◆超勤解消に向けて◆

(9) 道教委が実施している時間外勤務縮減に向けた下記の重点取組の中で、効果が現れていると思うものを選んでください。（複数回答可）

- | | | |
|--|---|---|
| <input type="radio"/> 部活動休止日の設定などの取組の充実 | <input type="radio"/> 変形労働時間制や週休日の振替等の周知と有効活用 | <input type="radio"/> 管理職による業務管理（勤務時間・内容の把握）の充実 |
| <input type="radio"/> 定時退勤日・時間外勤務縮減強調週間の定期的な実施 | <input type="radio"/> 効果的なものはない | |

(10) 「職員の勤務時間外の業務従事時間を把握しているか」という道教委の抽出調査(2016.10)に対し、学校管理者の97%が「把握している/おおよそ把握している」とし、そのうち19%だけが「記録している」と回答しています。あなたの学校では、どのような方法で時間外勤務の把握が行われていますか？（1つだけ回答）

- | | | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|--|
| <input type="radio"/> 事前に申し出ている | <input type="radio"/> 事後に報告している | <input type="radio"/> 事前・事後の両方 | <input type="radio"/> 管理職が最後まで残って目視で把握している |
| <input type="radio"/> 時間記録表に記載 | <input type="radio"/> 学校独自の出退勤記録簿 | <input type="radio"/> 何も行われていない | <input type="radio"/> その他 |

(11) 労基法により、使用者は労働時間を適切に管理する責務を有していますが、教員は「原則として時間外勤務を命じない（給特法）」としていることから、勤務時間の正確な把握が行われていません。出退勤の時刻を記録し、何時間働いたかを把握することは労務管理の基本であることから、他の都府県ではタイムカードの導入などの動きが広がっています。労働時間の把握について、あなたが望ましいと思う方法を”1つだけ”選んでください。

- | | | | |
|--|---|-----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="radio"/> 管理職に口頭で報告する | <input type="radio"/> 管理職が目視で把握する | <input type="radio"/> 各自が勤務記録を付ける | <input type="radio"/> 出退勤記録簿に記載する |
| <input type="radio"/> タイムカード（ICカード）の導入 | <input type="radio"/> パソコンのON/OFFによって記録する | <input type="radio"/> その他 | |

(12) 「これが改善されれば長時間過密労働を解決・解消できるのに…」と思うものを”5つ”選んでください。

- | | | | |
|--|---|---|-------------------------------------|
| <input type="radio"/> 業務の位置づけの明確化 | <input type="radio"/> 自律的な業務の見直し | <input type="radio"/> 教職員定数の増員 | <input type="radio"/> 業務量に見合った人員の配置 |
| <input type="radio"/> 外部人材の積極的活用 | <input type="radio"/> 管理職のマネジメント力の向上 | <input type="radio"/> 土曜授業の廃止 | <input type="radio"/> 脱ゆとり教育の見直し |
| <input type="radio"/> 部活動時間の制限 | <input type="radio"/> 部活動指導員の配置 | <input type="radio"/> 出退勤時間の正確な把握 | <input type="radio"/> 時間外勤務の上限規制 |
| <input type="radio"/> 主幹教諭の配置 | <input type="radio"/> 業務改善に関わる好事例の周知 | <input type="radio"/> 教員1人当たりの授業時数の上限設定 | <input type="radio"/> 少人数学級の実現 |
| <input type="radio"/> 勤務終了後に一定の休憩時間を確保する勤務間インターバル制度の導入 | <input type="radio"/> 超勤の歯止めとなっていない「給特法」の廃止 | <input type="radio"/> 教育公務員への労働基準法の全面適用 | <input type="radio"/> その他 |

(13) 超勤解消に向けてのご意見・ご要望があれば自由にお書きください。

*アンケートは指定の回収袋までお願いします [8月31日(木)〆切] ご協力ありがとうございました